

教科

社会(歴史的分野)

学年

第1学年

単元名	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1章 歴史のとらえ方・調べ方	小学校で学習した歴史上の人物や文化財について振り返り、年表に整理する活動や、「歴史ゲーム」の活動を通して、時代の特色や歴史の移り変わりへの興味・関心を高める。 時代区分の方法や年代の表し方〔西暦・世紀・年号(元号)〕について理解し、年表の見方・表し方を身につける。	課題を追究したり解決したりする活動を通して、年代の表し方や時代区分の意味や意義についての基本的な内容を理解している。 課題を追究したり解決したりする活動を通して、資料から歴史に関わる情報を読み取ったり、年表などにまとめたりするなどの技能を身につけている。	時期や年代、推移、現在の私たちとのつながりなどに着目して、小学校での学習を踏まえて歴史上の人物や文化財、できごとなどから適切なものを取り上げ、時代区分との関わりなどについて考察し表現している。	私たちと歴史の活動を通して、歴史学習に向けて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
第2章 原始・古代の日本と世界 1節 人類の出現と文明のおこり	人類が出現し、やがて世界各地で古代文明がおこったことや、宗教がおこったことを理解する。 それぞれの古代文明には、農耕や牧畜を基盤にして築かれたこと、文字の使用、国家がおこったことなど、共通する特色があることを理解する。	世界の古代文明や宗教のおこりをもとに、考古学の成果をはじめとする諸資料から歴史に関するさまざまな情報を調べまとめ、世界の各地で文明が築かれたことを理解している。	古代文明や宗教がおこった場所や環境などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、世界の古代文明の特色や宗教のおこりについて多面的・多角的に考察し、表現している。	人類が出現し、やがて世界各地で古代文明がおこったことについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
第2章 原始・古代の日本と世界 2節 日本の成り立ちと倭の王権	日本列島で狩猟・採集を営んでいた人々の暮らしについて考える。 日本列島での農耕の広まりによる人々の生活の変化に気づき、国家が形成されていく過程のあらましを東アジアとの関わりを通して理解する。	日本列島における農耕の広まりと生活の変化や当時の人々の信仰、大和政権による統一の様子と東アジアとの関わりなどをともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を調べまとめ、東アジアの文明の影響を受けながら日本で国家が形成されていったことを理解している。	農耕の広まりや生産技術の発展などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、農耕の広まりによる人々の生活の変化や、大和政権による統一と東アジアとの関わりなどについて、多面的・多角的に考察し、表現している。	日本列島での人々の生活の変化と、国家が形成されていく過程について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
第2章 原始・古代の日本と世界 3節 大帝国の出現と律令国家の形成	7～8世紀の世界では、東西に大帝国が成立し、シルクロードを通じた国際交流が盛んになったことを理解する。 日本では、大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら、国家のしくみが整えられたことを理解する。	律令国家の確立に至るまでの過程、摂関政治などをともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を調べまとめ、東アジアの文物や制度を積極的に取り入れながら国家のしくみが整えられ、その後、天皇や貴族による政治が展開したことを理解している。	東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、東アジアの動きが日本の政治に与えた影響などについて、多面的・多角的に考察し、表現している。	7～8世紀の世界の動きや律令国家が形成されていく過程について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
第2章 原始・古代の日本と世界 4節 貴族社会の発展	天皇や貴族の政治が展開され、古代国家が発展していったことを理解する。 国際的な要素をもった文化が栄え、後に文化の国風化が進んだことを理解する。	仏教の伝来とその影響、仮名文字の成立などをともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を調べまとめ、国際的な要素をもった文化が栄え、それらを基礎としながら文化の国風化が進んだことを理解している。	東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、都の貴族や地方の農民の暮らし、摂関政治と天平・国風文化の特色について、多面的・多角的に考察し、表現している。	天皇や貴族の政治が展開され、古代国家が発展し、国際色豊かな文化から日本独自の文化が生み出されたことについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
第3章 中世の日本と世界 1節 武家社会の始まり	武士が台頭して鎌倉幕府が成立し、その支配がしだいに全国に広まったことを理解する。 武士や民衆の活力を背景に生まれた新たな社会や文化の特色について考える。	鎌倉幕府の成立、鎌倉時代の文化や仏教などをともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を調べまとめ、武士が台頭して主従の結びつきや武力を背景とした武家政権が成立したことなどを理解している。	武士の政治への進出と展開や、東アジアにおける交流などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、武家政治の特徴について多面的・多角的に考察し、表現している。	武士が台頭して鎌倉幕府が成立し、その支配が全国に広まるとともに、武士や民衆の活力を背景に生まれた社会や文化について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究している。
第3章 中世の日本と世界 2節 ユーラシア大陸の動きと武家社会の変化	13世紀ごろの世界では、ユーラシア大陸に広がるモンゴル帝国(元)が成立し、東西の貿易や文化交流が盛んになったことを理解する。 南北朝の争乱や室町幕府の成立について、東アジア世界との密接な関わりとともに理解する。	元軍の襲来や、南北朝の争乱と室町幕府、日明貿易、琉球の国際的な役割などをともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を調べまとめ、元軍の襲来がユーラシアの変化の中で起こったことや、武家政治の展開とともに、東アジア世界との密接な関わりがみられたことを理解している。	モンゴル帝国(元)の拡大の様子や、武士の政治への進出と展開、東アジアにおける交流などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、この時代の武家政治の動きとその特徴や、東アジアの動きが国内の政治や社会に与えた影響について多面的・多角的に考察し、表現している。	武家政治の変化と東アジアの動きについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
第3章 中世の日本と世界 5節 結びつく民衆と下剋上の社会	応仁の乱後の社会的な変動や戦国の動乱などから、武家政治の展開について理解する。 農業などの諸産業が発達し、畿内を中心とした都市や農村に自治的なしくみが成立したことを理解するとともに、室町文化には禅宗の影響や現在との結びつきがみられることに気づく。	農業など諸産業の発達、畿内を中心とした都市や農村における自治的なしくみの成立、武士や民衆などの多様な文化の形成、応仁の乱後の社会的な変動などをともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を調べまとめ、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解している。	農業や商工業の発達に着目して、事象を相互に関連づけるなどして、民衆の成長が社会に与えた影響について多面的・多角的に考察し、表現している。	民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。